

KiKiの広場

2017年 3月 1日

cafe NO.77
KiKi



ずいぶん暖かくなつてはきましたが、この暖かさのせいでしょうか、ちょっとびっくりすることがおきました。アーチのジャスミンです。毎年5月頃蕾がつくのですが、なんと今蕾がいっぱいついているのです。切り取ったジャスミンを花瓶に生けておいたら、店内で一足早く花も咲いてしまいました。かなり伸び放題でジャングル化していたのを、ほったらかしにしていたせいでしょうか。2か月も早いこの状況に、少々うろたえ気味の私たち。今年はきちんと剪定しようと心に決めた今日この頃です。(^^)

3月の予定

休館日	14日(火)
定休日	毎土・日曜日



「今月のケーキ」…「抹茶のロールケーキ」 350円

抹茶を練り込んだスポンジに、バニラクリームと小豆を巻き、さらに抹茶クリームをナッペしました。抹茶をふんだんに使用しておりますので、抹茶の風味が香高いロールケーキです。



今月のお気に入り…「旅立ちの春に贈りたい絵本・読みたい絵本」

～「こどいをすきになった山」「ルリユールおじさん」「ようちえんいやや」「空より高く」「ラチとらいおん」 などなど ～



「こどいをすきになった山」の作者は、アンデス山脈の実地調査をして博士号を得た文化人類学者のアリス・マクレーラン、絵はエリック・カールです。寂しい岩山と渡り鳥のジョイとの1年に1度の交流が、気の遠くなるような時間をかけて奇跡を生みます。岩山がジョイを思う切ない想いと、わが子に受け継がせていくジョイの岩山への想い。孤独から希望へ、壮大な物語が胸を打ちます。「ルリユールおじさん」は、いせひでこさん作です。舞台はパリ、ルリユールとは製本職人のことです。少女ソフィーが大切にしている植物図鑑がバラバラになり、ルリユールおじさんの手によって生まれ変わります。細かい工程が美しい絵で丁寧に描かれており、完成した世界に1つだけの植物図鑑は、うっとりするほど素敵です。ソフィーは大人になって植物学者になります。本との出会い、人との出会いの大切さを感じます。



今月の本棚…「瀬川康男の世界」

～「ちっちゃなちっちゃなものがたり」「ぼうし」「こしおれすずめ」「いないいないばあ」「ことばあそびうた」 などなど～



独特な画法で有名な絵本画家の瀬川康男さんの特集です。「ちっちゃなちっちゃなものがたり」は、ピンクの表紙に娘のようなおばさんの絵。さてお話はというと、あれあれ？墓場が出て来て、骨を拾って？もしかして怖い話？イギリスの昔話ですが、瀬川さんの可愛らしい絵からは想像できない、不思議でちょっとドキドキの絵本です。「ぼうし」は、これまた瀬川ワールド全開の本です。思わず見とれてしまう絵と、桃太郎や金太郎そして弁慶まで出て来て、なぜかぼうしをかぶってそれぞれの相手と戦うというナンセンスなお話。最後はみほちゃんと犬のしろくん。お互いのやり取りがほほえましくて、とっても楽しい絵本です。



ほっとスライク

先月、枝だけになってしまった胡蝶蘭ですが、あれから次々と蕾が開き、今ではなんと6つの花が咲いています。処分されかけていた小さな蕾たちが、無事にきれいな花を咲かせることができ、スタッフ一同ホッと胸をなでおろしました。



また枝と葉ばかり伸び続けて、言わなければわからない3年越しのポインセチアの葉が、今頃になって赤く色づき始めました。これならポインセチアってわかります。時期外れですけど・・・!(^^)! 物言わぬ生き物たちですが、一生懸命、命を繋げて生きているんですね。花が咲いた、葉が色づいたそんな些細な変化に一喜一憂できるというのも、幸せなことだなあと、花々に感謝です。